

1-6 施設・設備等

A群・大学院研究科の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性

B群・大学院専用の施設・設備の整備状況

本研究科は、2003年4月より青山キャンパス5号館を施設として教育・研究活動を行っている。5号館は6階建ての鉄筋コンクリート構造の建物で各種の教育研究施設が用意されている。5号館の学習環境の充実を図るために、2004年度に**5号館全館に無線LANを敷設**した。学生は合同研究室で無線LANカードを借出し、教室、学生研究室及び学生談話室で自由にインターネットに接続できるシステムを導入した。本研究科のグローバル・クラスルームによる国際合同授業は、8号館3階の20名収容の**セミナールーム**及び60名収容の932番教室の**オーディトリウム**の施設があり、米国・カーネギーメロン大学等とオンライン・リアルタイム・テレビ会議システムによる国際合同授業が行われている。

「論文等研究成果の発表状況」の点検・評価項目で示したように、本研究科は5号館5階に学術フロンティア・センターを設置し、内外の研究者を招いて会議や研究会を行うことのできる共有スペースを提供している。同センターでは最新の専門雑誌、書籍が常時閲覧できるのに加え、リアルタイムでの金融情報提供するロイター・ターミナルを3台、Unixサーバを1台、コピーボードなどを設置し、教員の利用に供している。また、「教員個室等の教員研究室の整備状況」の点検・評価項目で示したように、本研究科には独自の図書室があり、学術フロンティア・センターに保管することのできない学術雑誌、文献を保管・管理している。

5号館5階には実験ファイナンスの研究用にFASTラボラトリー、マネジメント・シミュレーションの研究用にマネジメントゲーム・ラボラトリー、IT技術の応用研究用にインターネットビジネス・ラボラトリーを配置している。各ラボには研究に必要なPCやUnixサーバ、プレゼンテーション機材などが設備されており、それらを研究テーマとする教員が共同で管理・運営している。

また、5号館6階には教員の個人研究室のほかに、小規模の研究打ち合わせやセミナーなどを行うことのできる5室のセミナー室を確保している。

5号館2階から4階には本研究科専用の教室を配置している。ホワイトボード、教材提示装置などを備えた7つの一般教室に加え、FASTの授業用に525教室、マネジメントゲームの授業用に531教室、インターネットビジネス・プロジェクトの授業用に530教室、EMBAの授業用に540教室などの専用教室を整備している。

主要な施設設備の一覧を下表に示す。

8号館3階：「グローバル・クラスルーム」セミナー室 オンライン・リアルタイム・テレビ会議システムによる国際合同授業室
9号館932室：「グローバル・クラスルーム」講義室 オンライン・リアルタイム・テレビ会議システムによる国際合同授業室
5号館525室：「FAST教室」（48m ² ）・パソコン室 「FAST I」及び「ファウンド・マネジメント・シミュレーション」の教育施設設備
5号館542、543、544、551室：「学生研究室」 MBA学生研究室2室（67m ² 、70m ² ）、EMBA学生研究室（67m ² ）、博士課程学生研究室（67m ² ）
5号館545：「学生ラウンジ」（134m ² ） 学生の交流活動室
5号館54S：学生コピー室（16m ² ） 学生の資料等の複写施設
5号館530室：「インターネットビジネス・ラボラトリー」（67m ² ） 「インターネット・ビジネス・プロジェクト」電子商取引シミュレーション教育施設設備
5号館552室：「マネジメントゲーム・ラボラトリー」（34m ² ） 「マネジメント・ゲーム」のシミュレーション教育施設設備
5号館556室：「学術フロンティア・センター」（66m ² ） 国際マネジメント研究科附置の教育研究施設
5号館557及び558室：「国際マネジメント専用図書室（67m ² ）・図書閲覧室（67m ² ）」 国際マネジメント研究科専用の図書室及び閲覧室
5号館624、625、626、627、628室：「セミナー室」（18m ² ） 小ミーティング

C群・大学院学生用実習室等の整備状況

前述のとおり、5号館4階には大学院学生用の施設として2つのMBA学生研究室、EMBA学生研究室、博士課程学生研究室、学生ラウンジを設置し、学生の自習・交流の場に供している。これらの学生向け施設の稼働率は非常に高く、充実した学習環境を学生に提供している。

C群・独立研究科における、当該研究科専用の施設等の整備の適切性

前述のとおり、本研究科では多くの専用施設・設備を有している。これらは過去数年にわたり徐々に整備し続けてきた蓄積であり、今後もまた整備を進めていく計画である。しかし、近年整備された一部の専用教室を除けば、ほとんどの教室では設備が十分とはいえず、毎年、学生から改善の要望が強く出されているのが現状である。競合する他大学の経営系専門職大学院と比べても本研究科の教室設備の劣位は明らかであり、今後の大学間競争においては大きなハンディキャップを背負っているとわづらるを得ない。

これまで行ってきた本研究科専用施設の整備にかかる費用のほとんどは、研究科独自の予算により賄われてきたが、それにはおのずと限界がある。5号館の建物は老朽化が進み、耐震性など今後慎重に検討しなくてはならない問題が残されている。これらは研究科が単独で対処できる問題ではない。今後は、大学が支援体制を整え、適切なる予算措置により抜本的な対策を行うことが強く望まれる。

C群・夜間に教育研究指導を行う大学院における、施設・設備の利用やサービス提供についての配慮の適切性

本研究科はフレックスタイムMBA学生の授業を夜間（18:30～20:00）に行っている。夜間に通う社会人大学院生の利便性を考え、前述の学生向けの各種施設・設備は22:00まで学生に開放している。また、専門職大学院事務室は、学生が夜間の授業後に訪れることを想定し、20:30まで窓口業務を行っている。

A群・施設・設備等を維持・管理するための学内的な責任体制の確立状況

本研究科の施設・設備には、各室ごとに1人の専任教員が管理責任者として割り当てられている。改善、修理など必要な措置が見つかった場合には、管理責任者を通して速やかに当該管理部门と連絡を取り、問題を解決する体制がとられている。

B群・学術資料の記録・保管のための配慮の適切性

本研究科では専用図書室を設置し、大量の文献・資料を保管している。これらは教員、学生に解放され、普段の教育・研究活動に利用されている。

B群・国内外の他の大学院・大学との図書等の学術情報・資料の相互利用のための条件整備とその利用関係の適切性

「国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の明確化」「国際レベルでの教育研究交流の緊密化」の点検・評価項目で示したように、本研究科はABEST21を組織し、世界の高等教育機関との連携を密に行っている。提携する各校とは、授業で用いる各種のケースコンテンツの共同開発を行い、本研究科が独自で開発したマネジメント・ゲーム（MBABEST21）などと合わせて、相互利用を行っている。このように本研究科ではABEST21の組織を活用して、積極的に他大学との情報共有、教育マテリアルの

本章 IV. 専門職大学院の取組

相互利用を図っている。